

日本中小企業学会

2013年12月

会 報

No. 64

会長就任にあたり

日本中小企業学会 寺岡 寛 新会長挨拶



寺岡 寛 (中京大学) 新会長

今回、日本中小企業学会の第12期の会務をお預かりすることになりました。わたしたちの学会も日本社会の変化と無関係ではなく、その影響のなかにあります。少子高齢化との文脈でいえば、学会でも少子(=若手研究者)高齢(年配会員の増加)化が著しくなっています。新会員をみても、以前は学部などから大学院へと進学して研究者を目指す若い人たちが多かったように思えます。いまでは、各部会の新会員でもいわゆる社会人大学院生が目立つようになりました。

こうしたなかで、中小企業研究の関心領域も変化してきました。全国大会をみても、中小企業の経営に関わる具体的かつ実践的なテーマが多く占めるなかで、中小企業に関わる理論的あるいは歴史的なテーマは以前ほどの輝きを持たなくなっているようでもあります。今後はこうした研究領域の実践、理論、歴史のバランスある取り組みが必要とも考えております。わたしたちの学会の役割は、中小企業という視点を通して、わたしたち

の経済や社会の問題点と課題を明らかにして、その解決の一端となるヒントなどを提案し続けることにあるように思います。企業活動に関してはCSR(Corporate Social Responsibility)論が出てきましたが、わたしたちの学会においても、ASR(Academic Society Responsibility)がますます重要となることでしょう。

そうしたなかで、学会員が調査し、研究し、その成果を広く公表すべき課題も多様化してきています。新中小企業基本法以降のわが国中小企業政策への評価、近々においては金融円滑化法の評価とその終了後の金融措置と中小企業との関係、いわゆるアベノミクスと中小企業との関係、TPPと中小企業との関係、少子高齢化と中小企業との関係、グローバル化経済と中小企業との関係等々、わたしたちが分析対象とすべき課題はこのほかにも多々あることでしょう。全国大会での活発な報告活動を支援していきたいと思っております。

歴代会長の下で営々として引き継がれてきた若手研究者—新入会員—の育成、国際交流の活発化を通して学会員の研究水準の向上を目指すことへの支援、学会財政状況の改善などがわたしの使命であると心得て、皆様のご協力の下で任期を全うしたいと考えております。学会ニュースレターを例にとり、いままでは単に受け取る身から改めて発行し会員の皆様にお送りする身になってみれば、何をどうして対応すればよいのか。呑気なはなしとは思いますが、このことひとつとっても、いままで学会会務を預かってこられた関係者皆様のご苦労に気づかされております。何分、学会事務についてはほとんど素人同然ですので、事務局の若手の人たちと一から謙虚に学びつつ、会員皆様の学会活動を中部部会の幹部の皆様と協力して支援していく所存ですので、今後ともなお一層のご協力をお願い致します。